策定方針テーマ：「持続可能なまちづくり」「人口減少、少子超高齢社会への対応と課題の克服」　分野横断的な考え方：ＤＸ・ＧＸ（・ＳＤＧｓ）

将来展望：2060 年(R42) 80,000 人
目標人口：2033 年(R15) 91,000 人

資料５

現状

時代の潮流

① 人口減少・少子超高齢社会の進行
② 教育や子育てに対する関心の高まり
③ インバウンド需要の回復
④ 社会経済情勢の変化
⑤ 防災意識の高まり
⑥ 社会資本の老朽化
⑦ 地域コミュニティの維持と共生社会の実現
⑧ 環境問題への対応
⑨ デジタル化の進展、デジタルテクノロジーとの共生

島田市の概況　【基礎調査】

＜人口推移＞　R3：96,769 人→R6：94,747 人
＜地域別人口増減＞　六合地区のみ増加
＜１万人当たりの診療所数＞　県内 23 市中 16 番目
＜就業者数＞　H27：51,219 人→R2：49,883 人
＜第２次産業事業所数＞　県内 23 市中５番目
＜農林家数＞　H27：4,491 戸→R2：3,459 戸
＜小売業の年間販売額＞
H28：96,258 百万円→R3：82,995 百万円
＜観光客数＞　R3：1,747 千人→R5：2,366 千人
＜新設住宅戸数の推移＞　R2 に初めて 500 戸を下回った
＜財政力指数＞　H27 以降減少　H27：0.76→R4：0.71

市民意向【アンケート・ワークショップ】

まちの目指す将来像：４割強が肯定的
行政に望むこと：福祉･医療等､商店・企業､公共交通

事業者意向【アンケート】

島田市の強み：鉄道・道路などの交通インフラ
島田市の弱み：市街地のにぎわい、人口･市場規模
行政に望むこと：中心市街地の活性化

若者意向【アンケート・ワークショップ】

居住意向：若い人ほど住みやすいと回答
また、都会での就職より地元に残りたい傾向
行政に望むこと：子育て･教育､地域経済､安全･生活環境、公共交通
自分たちにできること：地域を知るため「人とつながる」

市外在住者意向【アンケート】

島田市の魅力：イベントや祭りなどの伝統文化(イベント)

移住者意向【ワークショップ】

市外から見た印象：自然･生活環境が良く住みやすい
自分たちにできること：地域活性化のため「人とつながる」

施策評価　経年変化【市民意識調査 R6】

○島田市を好きな市民の割合
・R3：73.7%→R6：75.2%
○住みよいと思う市民の割合
・R3：86.7%→R6：86.4%
○住み続けたいと思う市民の割合
・R3：76.6%→R6：76.4%

○満足度の高い施策
・ごみの分別・収集
・資源のリサイクル
○満足度の低い施策
・魅力ある商店街づくりなどの商業振興
・公共交通機関の充実

分野別課題（分野別の認識）

分野別課題認識

① 防災
災害の頻発・激甚化
地域防災力の向上
情報の効率的・効果的発信
被災者支援の担い手確保

② 健康・医療・福祉
医療・介護需要の更なる増大
高齢者のみ世帯の増加
医療提供体制の維持
支援を要する人の課題の複雑化、複合化

③ 地域・生活
まちづくりにおける市民の主体的な参画
安全・安心に住み続けられるまちづくり
公共交通の確保
価値観の多様化、在住外国人比率の増加

④ 子育て・教育
仕事と子育ての両立に困難を抱える世帯の増加
困難な課題を抱えた子供の増加
主体的な学びの重要性
価値観やニーズの多様化
スポーツと心や体の健康増進の密接な関わり

⑤ 観光・交流・歴史・文化
認知度・魅力度の低さ
観光消費の拡大、地域経済の活性化
地域の魅力の発信
島田市への愛着や誇りの醸成

⑥ 経済・産業
労働力不足
空き家・空き店舗の増加
農林業分野における担い手の不足
お茶の生産量、販売額の減少

⑦ 都市基盤
人口密度の維持、生活の利便性の確保
インフラの老朽化進行
広域高速交通網の結節点としての強みの活用

⑧ 環境・自然
環境配慮の重要性
ゼロカーボンシティの実現
荒廃森林や荒廃農地の増加

⑨ 行財政
財政の硬直化
真に必要なサービスの見極め
デジタル技術の活用、情報格差への対応
公共施設の老朽化進行

戦略課題の認識

ＳＷＯＴ分析

市の内部環境と市を取り巻く外部要因をプラス要因とマイナス要因に分けて整理する手法。
これらをそれぞれクロス分析することで、まちづくりにおいて解決していくべき課題の方向性を整理する。

内部環境
基礎調査や市民意見聴取から、「強み」「弱み」を整理する。

外部要因
ＰＥＳＴ分析（「政治」「経済」「社会」「技術」の４分野で整理する手法）によって「機会（チャンス）」「脅威」を整理する。

② クロスＳＷＯＴ分析

強み×機会（成長戦略）
・「島田市緑茶化計画」の推進
・ＤＸ推進による生産性向上を経た第２次産業の強化支援
・充実した広域交通網を活かした企業誘致の推進
・インバウンド需要獲得のための観光振興

強み×脅威（回避戦略）
・県と連携した南海トラフ地震などの大規模災害に対する防災危機意識の高度化
・各種子育て支援制度を活かした出産・育児しやすい環境づくり
・歴史・文化に触れる機会創出による地域コミュニティ活動を担う人材の育成
・空港周辺や内フロ推進区域を活用した観光交流客数増加による地域経済の活性化

弱み×機会（改善戦略）
・デジタル技術を活用したスマート農林業、農林業のＤＸの取組強化
・環境教育などの推進による環境意識の向上及びリサイクルの促進
・空き家、空き店舗等のリノベーション支援

弱み×脅威（改革戦略）
・医療・介護サービス人材の安定的な確保
・公共交通機関の利便性向上による生活環境の改善
・若年層向け市内就業の強化による流出防止
・地域の実情に応じた防災・減災のための道路等インフラ整備
・人口減少に対応する公共施設のストックの適切な維持・管理

これからのまちづくり 基礎的な考え方（政策の方向性）

政策の方向性

① 防災
危機管理体制の改良・強化
ソフト・ハード両面の対策
関係機関との連携強化

② 健康・医療・福祉
健康寿命の延伸、健康格差解消
地域包括ケアシステムの深化
総合医療センターの安定的運営と機能向上、地域医療体制の確保と充実
重層的支援体制の強化、地域共生社会の実現

③ 地域・生活
協働のまちづくり
交通安全・防犯等の意識啓発
公共交通事業の継続
多様性の理解、多文化共生社会の実現

④ 子育て・教育
子育て世代への切れ目ない支援、地域全体で子育てする環境づくり
家庭・地域・学校等の更なる連携
魅力ある授業づくり、特色ある教育活動
ニーズをとらえた生涯学習環境の充実
市民ひとり１スポーツの実現

⑤ 観光・交流・歴史・文化
認知度・魅力度の向上
観光で稼ぐ地域づくり
関係人口の創出・拡大
歴史･文化資源の保存･管理･活用

⑥ 経済・産業
起業サポートやＤＸ・ＧＸの後押し
ｳｫｰｶﾞﾙなまちづくりによるにぎわい創出
農林業における生産性、付加価値の向上
付加価値の高いお茶の生産・輸出の支援

⑦ 都市基盤
ｺﾝﾊﾟｸﾄ･ﾌﾟﾗｽ･ﾈｯﾄﾜｰｸのまちづくり
インフラの整備、老朽化対策
幹線道路の整備、国への整備促進

⑧ 環境・自然
環境負荷の低減
農林地や緑地の保全
大井川の水資源、市内の水環境の保全

⑨ 行財政
人、物、予算、時間の最適配分
ＤＸの推進による効率化、質の向上
施設の品質･保有量･管理費の最適化